

明日の生き方を考える世界史学習を目指して 歴史的思考力を養うための授業実践

〇〇〇立〇〇〇〇高等学校 〇〇 〇〇（世界史）

1 はじめに

初任者研修の指導教官から「授業で何を教えたいのか」と指導されていた時から、すでに 12 年の月日が経過した。私の中では、初任の時以来、生徒たちに歴史的な考え方、考える力を教えることが歴史授業に課せられた課題だと考えてきた。しかし、私の 12 年間の教員生活を振り返ると、年度初めのオリエンテーションでは「考える力を身につけよう」と説明していながら、その後の授業は網羅的な歴史事項の説明に終始してしまっていた。今回の研究をきっかけにもう一度原点に戻り、歴史的思考力を身につけることで、生徒が明日の生き方を考える手段に活かす方向性を考えたい。

2 本校生徒の概況

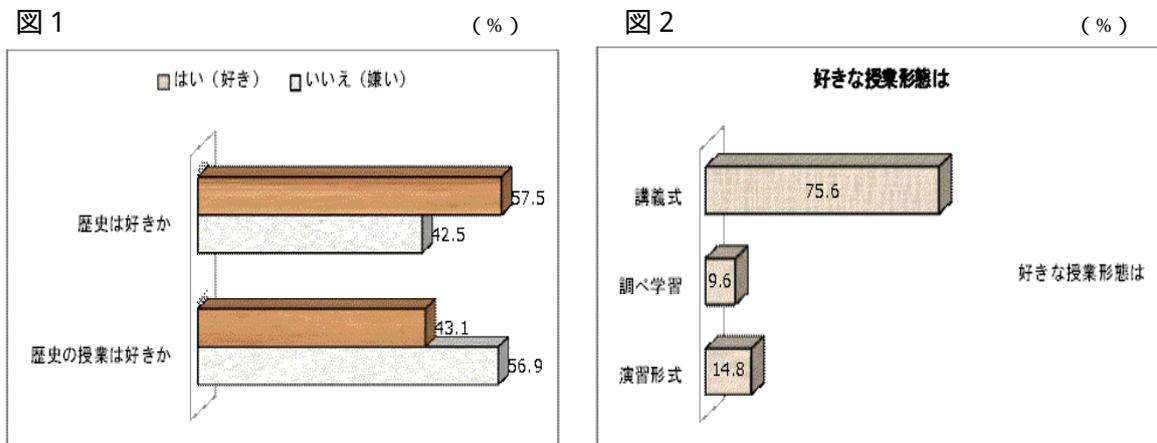
(1) 学校の概況

本校は昨年、創立 60 周年を迎えた独立の商業高校である。生徒の約 60 %が就職を希望しており、毎年 160 人以上が卒業後すぐ社会人の仲間入りをする。そのため、学校全体が就職を意識した教科指導や生徒指導を行っており、地域からの期待も大きい。

本来であるならば、本校卒業後すぐ社会に出る生徒たちに対し、情報を収集し取捨選択する力を鍛えたり、レポート等の完成度を高めるための工夫、または、自己の学習能力・作業能力を管理する力を高めたりして、社会人としてすぐ必要とされる基本的ノウハウ、つまり生きる力を高校時代に身につけさせることが大切なのだと思う。そして、社会での有用性を感じ取れるようにさせてあげるのが、我々教員の役目なのではないかと思っている。

常に一歩先を見つめ、自らの生き方を探し当てるために、地理歴史科教員である私が生徒たちに何ができるのかを考えた結果、授業の中で明日の生き方を考える世界史学習を目指していくことが必要なのではないかと考えた。

(2) 生徒の意識と状態（アンケート結果より）



4月当初、担当クラスで簡単なアンケートを実施したところ、図1のアンケート結果が出た。「歴史は好きか？」の問いに 人中 人(57.5%)が「はい(好き)」と答え、「いいえ(嫌い)」と答えたのは 人(42.5%)であった。しかし、次に同じような質問であるが「歴史の授業は好きか？」の問いに、「はい(好き)」と答えたのが 人(43.1%)で、「いいえ(嫌い)」と答えたのが 人(56.9%)であり、ちょうど逆転した結果となった。実際、「歴史は好き」だけれども「歴史の授業は嫌い」と答えたのが 人中 人に上った(40%)。そして歴史(の授業)が嫌いな理由は、「暗記することが多いから」、「暗記が苦手だから」という回答が60%を超えた。生徒の考えでは「歴史は暗記科目」であり、「暗記が苦手」だから「歴史は嫌い」という構図が浮かび上がってくる。「何故そうなったのか」といった考えを働かせず、受動的で与えられた事項を暗記する、歴史=暗記の固定観念が強く、是非ともこの構図を打開したいと以前から考えていた。

生徒の授業中を観察すると、物事をよく考えて授業に臨んでいる者が少ないことに気づく。発問に対しても、問題の難易に関係なく、考える間もまなく「わかりません」と言ってその場を回避する生徒が非常に多い。教員の答えや説明を待つ受け身の姿勢でいる生徒がほとんどなのである。図2のアンケートより、好きな授業形態は75.6%もの生徒が「講義形式の一斉授業」を望んでいることがわかる。しかし、その理由は「黒板を写せばいいから」、「先生が大事な所をまとめてくれるから」といった回答が目立つのが現状である。

3 主題設定

「歴史は覚えるだけで考える教科ではない」と信じている生徒たちに対し、私が考える歴史授業の意義は、過去に起きた歴史的事象を未来の鏡として受け止め、現在起きている、あるいは未来に起こるであろう様々な問題解決のために役立てることと考えている。自分たちが未来の見通しを得ようとする場合、過去から学んだ歴史的事象に対し自分なりの価値判断を行い、参考材料として考えることは生き方の指針となる。だから、授業で培った歴史的思考力によって、日常生活での様々な社会的事象を的確に判断し、将来より良い社会生活を営むことができると考えている。以上のことから、歴史授業では、その歴史的事象に対し生徒自身がそれまで獲得した知識や経験を根拠に、自分なりの価値判断ができる歴史的思考力を育てる学習活動が非常に重要であると考え、主題を設定した。

4 求められる歴史的思考力とは

では、これまで何気なく使ってきた「考える力」、「歴史的思考力」とは一体どのような力なのか。

(1) 高等学校学習指導要領解説による歴史的思考力

歴史的思考力は、高等学校学習指導要領の目標にも示されているように、世界史学習全体を通じて育成すべきものであり、「その一つの手立てとして、現代の人類が直面する課題を取り上げ、その原因や歴史的背景を追究させたり、解決のための視点や方策を歴史の中に探らせたりすることが考えられる。」とある。「つまり、歴史の理解を単なる知識の習得のレベルにとどめず、習得した知識を総合して現代の課題を分析し、未来を展望することにつなげていく」力であるとしている。(傍線はいずれも筆者、以下同じ)

又、世界史Bの目標にある「歴史的思考力を培う」ことに関する学習指導要領解説には、「他国や他地域の歴史を理解し、自国と世界とのかかわりを学び、日本の歴史や文化をより客観的に

見る目を養う。そして、世界の形成の歴史的過程、文化の多様性や現代世界の特質などを学習することによって、「歴史的思考力を培う」ことができるとしている。

(2) 『合衆国史のための全国基準』による歴史的思考力

アメリカでは、1990年代半ばに主要教科に関する教育内容の国家基準が相次いで作成され、そのうちの『合衆国史のための全国基準』(『National Standards for United States History』)の中に歴史的思考力についての基準が示されている。

- | | |
|-----|---|
| 基準1 | 年代別理解(過去・現在・未来の時間意識, 継続性と変化の意識) |
| 基準2 | 歴史的理解(歴史物語の構造の読み解き, 歴史的文脈での理解) |
| 基準3 | <u>歴史的分析と解釈(異なる資料や見解の比較・対照, 多面的視野から歴史解釈の考察)</u> |
| 基準4 | 歴史的研究能力(問いの設定, データの収集と批判, 歴史的議論の収集) |
| 基準5 | 歴史的争点分析と意志決定(争点の認識, 状況の分析, 選択肢の評価) |

この基準1から基準5を参考にすると、私が今まで行ってきた授業は、一つの視点から解釈したことを生徒にわかりやすく説明しようとする、基準1・2でしかなかった。しかし、生きる力を培うための歴史的思考力とは、基準3の歴史的分析と解釈ではないかと考えた。

(3) 兵庫教育大学大学院学校教育研究科原田智仁教授による歴史的思考力

「歴史認識に絶対的なものなどなく、それぞれの立場や史観によって、歴史の解釈は異なってくる。歴史の知識は仮説にすぎないことを教師自身が自覚し、かつ生徒にもそれを明示してゆく。教師の解釈をあたかも事実のごとく教えこむのではなく、さまざまな解釈があることを示し、それぞれの解釈の根拠を歴史の事実(史資料)に基づいて吟味してゆく。場合によっては、生徒自身が新たな解釈を提起することもありうる。そして、それらの中で最も説得力のあるものを暫定的に受け入れるのである。もちろん、その受け入れを判断するのが生徒自身であることは言うまでもない。」
原田智仁「歴史素材調理の技法」

上にあるように、歴史の解釈は決して一つのものではないし、絶対的なものでもない。

以上のことから、生徒に養わせたい歴史的思考力とは、段階的にレベルアップさせていくことで身に付く総合的な力であると考えた。

私の考える歴史的思考力とは	
第1段階	他国・他地域の理解と自国との関わりを結ぶ力
第2段階	複数の資料を収集し、解釈を提示・比較する力
第3段階	自分で歴史の解釈を考える力
第4段階	現代の課題を分析する力
第5段階	未来を展望する力

歴史教育の最終目標である「未来を展望する力」は、現代社会の課題分析が必要であり、自分自身で歴史的事象がどのような意味を持つのか解釈を考えなければならない。その解釈を考える資料は一つでは偏りがあり、正確性に欠けるので、必ず複数の資料を収集し、比較しなければならない。そのためには歴史用語を含め、基礎基本の理解が必要となる。よって最終目標から逆算

すると、生徒たちに身につけさせたい歴史的思考力を上記の第1段階から第5段階までを踏まえた総合的なものと位置づけ、今回授業実践に反映させた。

5 年間学習指導計画への位置づけ

歴史的思考力の第1・第2段階の力をつけさせるために、「第1部 諸地域世界と交流圏、特に、第2章 東西世界の交流」で「(実践) 調べ学習」を計画した。1学期に他国・他地域の基礎基本を理解させるだけでなく、自国との関わりを結ぶ力や、多くの資料を収集し、比較、解釈を行う訓練として調べ学習を計画した。

次に、歴史的思考力の第2・第3・第4段階の力をつけさせるため、「第2部 一体化する世界 第1章 大航海時代とヨーロッパ」で「(実践) グループ協議」を計画した。この単元は様々な立場の意見や視点をとらえやすく、考察するためのヒントが容易に集められるので、自分の歴史解釈を提示できるのではないかと考えた。又、この単元で現代の課題を分析する力も養えるのではないかと考えた。

最後に、歴史的思考力の最終段階に至る第3・第4・第5段階の力をつけさせ、また生徒一人一人がどれだけ歴史的思考力を身につけられたかを判断・評価するため、「(実践) レポート学習」を計画し、1年間の授業のまとめとなるようにした。以上のように実践・・・を通し、歴史的思考力を段階的に、そして重層的に身につけさせることを目的として、年間学習指導計画を策定した。

年間学習指導計画

学期	学習内容	本研究内容	歴史的思考力段階
1	第1部 諸地域世界と交流圏 第1章 諸地域世界の特質 第2章 東西世界の交流(実践)	(実践 調べ学習) 沖縄修学旅行に向けての調べ学習を行い沖縄文化と世界との関わりを発表する。	第1・第2段階
2	第2部 一体化する世界 第1章 大航海時代とヨーロッパ(実践) 第2章 アジア諸国の繁栄 第3章 拡大する近世ヨーロッパ 第4章 近代の欧米社会 第5章 ヨーロッパの進出とアジア	(実践 グループ協議) 大航海時代が世界にもたらしたものから、現代への影響と大航海時代の歴史解釈を考察させる。	第2・第3 第4段階
3	第6章 帝国主義の時代 第3部 現代世界と日本 第1章 20世紀の特質 第2章 二つの世界大戦 ポスト冷戦期の諸問題 (実践)	(実践 レポート学習) 戦争、環境問題等、現代社会の課題をあげ、未来への展望を考察する。	第3・第4 第5段階

6 授業実践

(1)「実践 調べ学習」

ア 調べ学習の目標

修学旅行で沖縄県を訪問することから、諸地域世界と交流圏の単元で、琉球王国の交易活動を中心に、東アジア世界（海域）の交流と世界の中の日本・沖縄を考察させ、歴史的思考力の第1段階である「他国・他地域の理解と自国との関わりを結ぶ力」と第2段階の「複数の資料を収集し、解釈を提示・比較する力」を身につけさせたいと考えた。

イ 指導計画

授業時間	生徒の活動
1 時間目	ガイダンス、班分け（5人×8班）、班毎に研究主題の決定 研究主題の決定に際しては、基本的に沖縄について調べてみたいこと・疑問に思っていることを取り上げる。沖縄と世界との関係（歴史）が比較してまとめられる内容を選択する。
2 時間目	グループ別調査・研究 各研究主題に対し、図書室を利用して調べ学習を行う。その際、世界との関わりを意識する。仮定問題（問い）を作成し、調査・研究を進める。コンピュータ室は商業科目の授業で全て使用しており、世界史の授業で使用することはできないので、インターネットを利用する場合は昼休み、放課後に使用し、又は家庭でも調査を進めた。
3 時間目	中間発表（画用紙2枚を使用して発表）、質疑応答 画用紙2枚を使用して中間発表を行う。他班より質問を受け付けることにより、自分たちの不足分を理解し、さらに問題点を追究する資料とした。
4 時間目	グループ別調査・研究 中間発表での反省や疑問を生かし、調査を進める。
5 時間目	グループ別調査（まとめ作業） どのようにしたら他の生徒が自分たちの発表を理解してくれるのか、を意識してまとめの工夫と考察を行う。最終発表には各班、模造紙1枚にまとめる。
6 時間目	最終発表（模造紙を使用して発表）、評価 発表の際には、自己評価と他班の評価を行い、模造紙・プリントを提出する。

ウ 指導上のねらい

- ・ガイダンスで6時間分の予定を示し、計画的な調べ学習を行わせるとともに、自分の班の進み具合に応じて作業管理能力を養わせる。
- ・好きな内容を調べさせることにより、世界史学習に興味を持ってもらうとともに、主体的に授業へ取り組ませる。
- ・調べ学習の内容は、世界史との関わりがあることを約束とし、世界史の授業の一環として実施することを強調した。
- ・仮定問題（問い）を作らせることで、研究内容を絞らせる。
- ・中間発表を行うことで、発表することの難しさや緊張感を理解し、他班の発表から自分達の反省点を見つけさせる。
- ・中間発表を画用紙で行った理由は、少ない調べ方でもある程度の形は完成できるので、「できた」という達成感を持たせることができる。
- ・中間発表の質疑応答から、発表に足りない部分を要求し、最終的により良い研究・発表につなげる。
- ・他班の評価をすることで、他班の発表内容を理解できると共に、発表をしっかりと聞く態度が身に付く。

図書室での調べ学習の様子



模造紙を使用しての最終発表の様子



中間発表の様子 (画用紙 2 枚を使用)



プリント (中間発表資料)

世界史プリント
調べ学習「沖縄と世界史の関係」中間発表資料

年 組 番号 班 名前

題 材 沖縄のシーサー

仮定問題 なぜシーサーができたのか。

参考文献 インターネットで調べた。

班の主張 (まとめ) シーサーがなかったら、シーサーを作ったら火事が減り、沖縄中に広がっていた。そのシーサーはエゾ犬の尻尾がもとになった。17世紀にシルクロードを越し、中国が沖縄に伝えたと考えられた。

★自己評価 *中間発表後に記入すること。
該当する記号を○で囲みなさい。

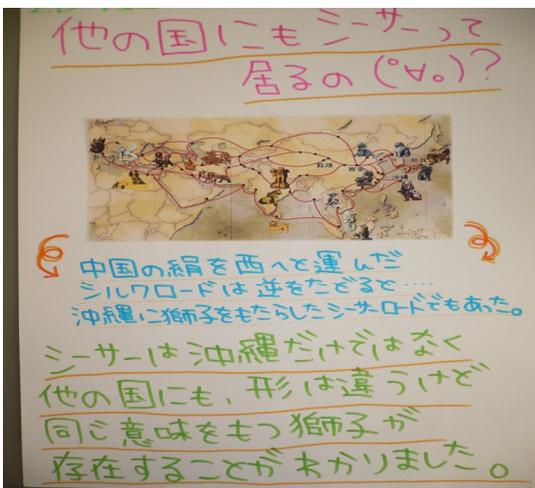
- 積極的に調べ学習活動に参加できたか
A) よくできた B) ふつう C) よくできなかった
- 調べ学習の内容は
A) よく調べられた B) まだ不十分な所があった C) 全く不十分だった
- わかりやすい発表の工夫ができたか
A) 工夫ができた (球は B) 工夫はできなかった)
- 他の人は、自分たちの発表を理解できたと思うか
A) たいへん思う B) 思う C) 思わない
- 他班の発表をしっかりと聞いたか
A) よく聞いた B) ふつう C) よく聞けなかった

反省 感 想 まだまだ不慣れな発表だったので、次発表も練習。もう一回うまくできたいと思います。もちろん発表もできたかったです。

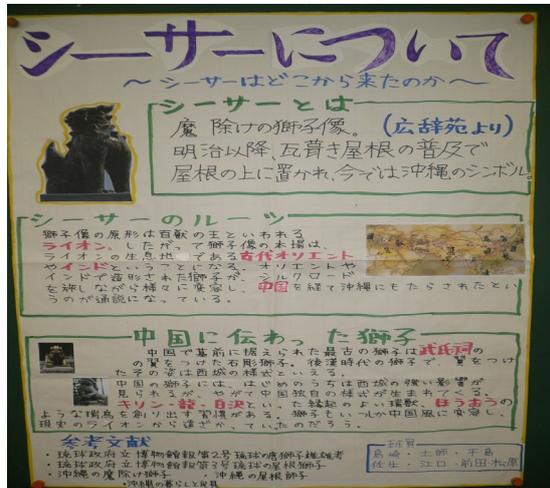
工 発表内容 分類

分野別	数	題 材 例
政治	2	沖縄の米軍基地, 戦後の沖縄 ~ 米 国支配下の沖縄 ~
経済	1	沖縄の産業と海外との関わり
社会	2	沖縄の信仰, 沖縄の珊瑚が抱える問題
戦争	4	沖縄戦争, 沖縄と戦艦大和, 等
文化	10	沖縄長寿の秘密 ~ 沖縄の食文化 ~ 沖縄の方言, 沖縄の伝統工芸, 首里城, 等
その他	4	シーサーについて

画用紙へのまとめ



模造紙へのまとめ



プリント（他班の評価）

世界史プリント 調べ学習「沖縄と世界の関係」 評価表

★他班の発表評価（項目1～3は、あてはまるものを○印で囲みなさい。4～6は記述しなさい）

項目	(1)班	(2)班	(3)班	(4)班	(5)班	(6)班	(7)班	(8)班
1. 発表の内容	A. よく理解できた B. 理解できた C. 理解できなかった							
2. 沖縄と世界との関係は	A. よく理解できた B. 理解できた C. 理解できなかった							
3. 発表者の態度は	A.良かった B.ふつう C.悪かった							
4. 発表を聞いていて	何のために沖縄を敬音しなされたのか	なぜ中心的な存在を敬音しなされたのか	沖縄守備隊の任務が飛行場建設であったという事	沖縄のクマビタミンCの効用を敬音しなされたこと	古代から文化の交流が盛んでいてそれを敬音しなされたこと	沖縄の方言がクマビタミンCの効用を敬音しなされたこと	敬音しなされたこと	敬音しなされたこと
5. 発表を聞いていて	沖縄が日本に属するのだから、1972年という時に20年後に返されたこと	大和の出身の心理的負担が敬音しなされたこと	沖縄守備隊の任務が飛行場建設であったという事	沖縄のクマビタミンCの効用を敬音しなされたこと	古代から文化の交流が盛んでいてそれを敬音しなされたこと	沖縄の方言がクマビタミンCの効用を敬音しなされたこと	敬音しなされたこと	敬音しなされたこと
6. 感想	沖縄が日本の属するのだから、1972年という時に20年後に返されたこと	大和の出身の心理的負担が敬音しなされたこと	沖縄守備隊の任務が飛行場建設であったという事	沖縄のクマビタミンCの効用を敬音しなされたこと	古代から文化の交流が盛んでいてそれを敬音しなされたこと	沖縄の方言がクマビタミンCの効用を敬音しなされたこと	敬音しなされたこと	敬音しなされたこと

- ★自己評価
- 積極的に調べ学習活動に参加したか
 - 調べ学習の内容を工夫ができたか
 - わかりやすい発表の工夫ができたか
 - 他班の発表をしっかりと聞いたか
 - 感想・反省
- A) よくできた
B) 工夫ができた (該当)
C) 工夫できなかった
- A) よくできた
B) ふつう
C) まだ不十分な所があった
- A) よくできた
B) 工夫ができた (該当)
C) 工夫できなかった
- A) よくできた
B) ふつう
C) まだ不十分な所があった
- A) よくできた
B) ふつう
C) まだ不十分な所があった
- A) よくできた
B) ふつう
C) まだ不十分な所があった

初めて知ることが多く、まだまだ沖縄について知りたいと思うことができた。自分たちで調べ発表することで、知識も深まったし、発表を楽しみながら聞いたことがよかったと思う。沖縄に限らず、他のこともやってみたいし、いい学習になると思う。

オ 評価規準

1. 関心・意欲・態度

- 班員と協力して話し合うことができる。
- 主題と関係ある書物を見つけられる。
- 自分の意見を班員に主張できる。
- 他人（班）の意見（発表）を聞く姿勢が取れる。

2. 資料活用の技能・表現

- 研究テーマに適した資料を複数冊収集し、比較をする段階に到達する。
- 他人にわかりやすい発表（態度）、内容、まとめになる工夫をしている。

3. 思考・判断

- 日本（沖縄）と世界の関係をしっかりと把握して調べている。
- 主題（仮定問題）に対する答え（まとめ）という形になっている。

4. 知識・理解

- 主題（仮定問題）について班員全員が正しく理解し、知識を共有している。
- 自分たちの言葉で発表したり、自分達の考えをしっかりとまとめている。

カ 発表を終えての生徒の感想

（原文、傍線は筆者）

初めて知ることが多く、まだまだ沖縄について知りたいと思うことができた。自分たちで調べ発表することで、知識も深まったし、発表を楽しみながら聞いたことがよかったと思う。沖縄に限らず、他のこともやってみたいし、いい学習になると思う。

ダラダラと発表してしまった気がします。でも料理はとて深く、調べ始めると歴史から気候まで、すべてのことに関わってくることを知りました。とても勉強になりました。

沖縄は戦争だけでなく、伝統的な料理や工芸、文化があり、とて沖縄について知ることができた。自分達の調べようとした課題についてもっと詳しく調べればよかったと思う。あとアジアとの関わりが強いと感じることができた。

沖縄は日本の国というより独立した国のように今回思いました。様々な国とのつながりからまた新しく文化ができてきていることもあり、とてもよく沖縄と世界のつながりが知れたと思います。

キ 検証

調べ学習の成果として先ずあげられることは、生徒たちが積極的に活動している姿が見られたことである。そして、発表を終えての生徒の感想にあるように「まだまだ沖縄について知りたいと思うことができた」、「沖縄に限らず、他のこともやってみたい」と意欲・関心を持ってくれた生徒がいたり、「アジアとの関わりが強い」と世界と沖縄（日本）の関係を感じてくれた生徒がいたことはよかったと思う。中間発表と質疑応答をはさんだことにより、生徒は自分たちの研究内容をより明確にでき、又、より発展的な内容に移ることができた。写真図の2枚（シーサーについて）はその一例である。

調べ学習の最中、全員が積極的というわけではなく、人任せでほとんど活動しない生徒もいたが、実践は歴史に対する関心と世界史学習への意欲を高める「世界史への扉」のような扱いになった。

(2) 「実践 グループ協議」

ア グループ協議の目標

「大航海時代とヨーロッパ」の単元でグループ協議を行い、先に掲げた歴史的思考力の第2・第3・第4段階の力をつけさせたいと考えた。

そのため、自分一人では思いつかない考えでも、グループで複数の資料・意見や考え方を持ち寄り比較することで、「大航海時代とは何だったのか」自分なりの歴史像を作らせるとともに、現代社会が抱えている課題について、協議を通じて見つけさせたいと考えた。

イ 学習指導案

(ア) 本時のねらい

- ・グループ分けにより、意見の出しやすい環境作りを心がける。
- ・一つの班が一つの地域の立場を担当し「大航海時代は良い出来事か、悪い出来事か」その理由について協議し、多くの意見の中から、一地域の中でも複数の解釈が出てくることに気づかせる。
- ・グループ内の意見、他グループの意見を聴いて、同じ歴史事象でも立場の違いによって考え方（解釈）が異なることを理解させる。さらにその中で、自分なりの歴史像を作らせる。
- ・グループ協議をすることにより、自分の意見だけでなく他人の意見を聞いて、比較検証する力を養う。
- ・過去の出来事でも、現代にまでつながる課題があることを理解させる。

(イ) 本時の学習展開 第1章 大航海時代とヨーロッパ

段階	指導内容	生徒の学習活動	学習活動支援・指導上の留意点及び評価	配当時間
導入	世界の一体化とは何かを考えさせる。	「世界の一体化」の言葉からイメージすることを考察 記入し発表する。	できるだけ良いイメージが出るようサポートする。 【関心・意欲・態度】	5分
	大航海時代がもたらしたもののとして ・コロンブスの交換 ・スペイン人による 征服活動 ・植民活動 を説明する。	図表を参照し、ヨーロッパからアメリカ大陸へもたらされたもの、アメリカ大陸からヨーロッパへもたらされたものを確認する。	同じ時期にヨーロッパから日本へも渡ったものがあることを確認させる。【知識・理解】 導入のイメージとは一転してマイナ斯的な内容を理解させる。 【知識・理解】	(10分)

展開	大航海時代の影響を地域別に考察させる。	グループ協議 「大航海時代は良い出来事か、悪い出来事か」各班で1つの地域の立場を担当し協議する。 ヨーロッパの立場 アメリカ大陸の立場 アジア（モルッカ諸島等原産地）の立場 アジア（日本）の立場 アフリカの立場 話し合った内容を発表する。 他班の発表を聞いてプリントに記入する。 自分達以外の地域の考え方を理解する。	教科書・図表から様々な視点を考えられるようにする。 【思考・判断】 発表がしやすいよう、クラスの雰囲気作りに留意する。 【関心・意欲・態度】 他の人に、発表内容がわかりやすく伝わるように意識させる。 【技能・表現】	(20分) 30分
まとめ	「大航海時代とは何か」を考えさせる。	大航海時代によって起こり、現代につながる課題を考察する。 大航海時代を自分なりに整理・まとめ（歴史解釈）をする。	プリントへの記入が行われているか確認する。 【思考・判断】【技能・表現】	15分

授業プリント（世界の一体化）

世界史プリント

世界の一体化
～大航海時代は世界に何をもたらしたのか～

組 番 氏名 _____

- 「世界の一体化」から浮かぶイメージは何か。具体的にあなたの考えを書きなさい。
文化が一つになること。
- ヨーロッパからアメリカ大陸に渡ったもの
馬、牛、羊、小麦、サウキビ、車輪、鉄器、伝染病（天然痘、インフルエンザ、ペスト）、キリスト教
- アメリカ大陸からヨーロッパに渡ったもの
トウモロコシ、タバコ、トウガラシ、サツマイモ、ジャガイモ、落花生、カカオ、トマト、カボチャ、七面鳥、ピーマン、インゲンマメ、伝染病（梅毒）
- ヨーロッパからアジア（日本）へ渡ったもの
トウモロコシ、タバコ、トウガラシ、サツマイモ、ジャガイモ、トマト、カボチャ
- アフリカからアメリカ大陸へ渡ったもの
奴隷
- 大航海時代は良い出来事か、悪い出来事か
A) ヨーロッパの立場（スペイン・ポルトガルなど）
(良かった・悪かった)
理由 生活が豊かになった。資源や奴隷が手に入ったから。

- アメリカ大陸の立場（インディアン、インカ帝国など）
(良かった・悪かった)
理由 強制労働や伝染病で人口が減ったから。
- アジアの立場Ⅰ（モルッカ諸島など原産地）
(良かった・悪かった)
理由 植民地にされた。
- アジアの立場Ⅱ（日本）
(良かった・悪かった)
理由 いろいろなものが入ってきた。
- アフリカの立場
(良かった・悪かった)
理由 奴隷になってしまったから。
- 大航海時代によって引き起こされた問題点（現代社会が抱えた課題）とは何か。
黒人種差別
南北問題
- (まとめ) 世界の一体化＝大航海時代とは何だったのか。あなたの考えを述べなさい。
アフリカ等の奴隷や植民地になった国々
貿易や新しい大陸の発見によって、一部を除いて生活は豊かになつたけど現代にまで残っている様々な問題が起こった（人種差別や南北問題など）

ウ 生徒のまとめ 生徒のプリントより （傍線はいずれも筆者）

（まとめ）世界の一体化＝大航海時代とは何だったのか。あなたの考えを述べなさい。

私が思った大航海時代は、「ないものを欲しがらる時代」です。自国が知らない土地・動物・食べものなどを欲しがらるその欲求が、大航海時代を生んだと思います。そして、ある国が他の国のものを欲しがらる、その国もまた他の国のものを欲しがらる。そんなサイクルが一体化の形だと思いました。

いろいろな地域の立場で考えると、多くの国が豊かになっている。でもそれと同時に、人口が減ったり、紛争が起きたりと、良い面もあるが、悪い面もある。どちらかと言えば、豊かになった国のために、被害を受けた国の方が多いと思う。先進国と発展途上国との差を作った原因でもあると思う。

貿易を通して異国との関係を深め、食文化、服装、宗教など、その国にないものを国から国へ渡り、と世界をつなぐものとして自分は良いと思いました。

エ 検証

4月当初、受動的で自分たちでは何もしようとしなかった生徒たちが、グループ協議では積極的な意見交換を行い、発表もスムーズに行うことができた。教科書にある言葉や教員の言葉を正解であると信じ、そのまま引用する班もあったが、他班の発表も参考にして答える生徒が現れてきたことも事実である。「世界の一体化、大航海時代は何だったのか」という問いに対し、「ないものを欲しがる時代」と自分で考え答えてきた生徒がいたことは評価に値する。また、「先進国と発展途上国との差を作った原因でもあると思う。」と歴史事象から現代の課題を分析する視点を持てる生徒も出てきたため、次の実践ではさらに一歩踏み込み、より多くの生徒から、各自の歴史像や現代の課題に関する分析を引き出すことに取り組んだ。

(3)「実践 レポート学習」

ア レポート学習の目標

歴史的思考力を養うための授業の総まとめとして、レポート学習を実施した。歴史的思考力の第3・第4・第5段階の力をつけさせるため、「習得した知識を総合して現代の課題を分析し、未来を展望することにつなげていく」ことを生徒たちに養わせる。

このレポート学習は、従来の知識を問う定期試験とは違い、どれだけの資料を収集・取捨選択し、自分の知識と合わせて考えをまとめられるかが課題であり、総合的な力をつけさせる。

イ レポート学習のねらい

- ・最初に以下の4段階に分けて設問を示し、手順を追って取り組めるようにした。
 - 問題提起・・・人類の抱えている課題とは何か。
 - 原因探求・・・何が原因でこのようになったのか。歴史的背景は何か。
 - 結果分析・・・世界と日本との関係は何か。
 - 未来への展望・・・私たちがこれからしなければならないこと、目指すことは何か。
- ・自分自身でテーマを決めさせ、主体性を持って取り組めるようにした。
- ・世界と日本との関係を考えさせ、世界史の授業でありながら日本の歴史・文化をより客観的に見られるようにする。さらに、自分自身の実生活・生き方にあてはめられるような考え方を持たせる。
- ・過去、現在、未来がつながりを持っていることを理解させ、明日の生き方を考える方法であることを意識させる。

ウ 評価規準

1. 関心・意欲・態度

課題を見つけ出し、それに対する答えを導き出せる。

2. 資料活用の技能・表現

課題に適した資料を複数収集し、比較をすることができる。

箇条書きではなく、しっかり文章にして記述している。

3. 思考・判断

日本と世界の間をしっかりと考察している。

未来に向けての展望をしっかりと述べている。

課題（人類の抱えている課題）に対する考え（まとめ）が出せている。

4. 知識・理解

原因探求として、歴史的な事象を見つけ出せている。

エ 生徒のレポート例（抜粋）

（傍線はいずれも筆者）

1. 人類の抱えている課題とは何か

環境問題

2. 何が原因でこのようになったのか（歴史的背景は）

完新世になり、食料となる野生動植物の減少から農耕・牧畜という人類みずからの手で食料生産を管理する試みがはじまったことが、環境破壊のはじまりだといえる。そして環境破壊が進んでいく中で大きな影響を受けたものの一つは森林である。森林伐採による地球への影響としては、砂漠化や気象・生態系への悪影響が考えられる。また産業革命により近代科学の発達や工業化社会の進展によって環境への影響力はこれまでと比較できないほど深刻になった。工場からの排煙などは大気汚染・温暖化などの環境問題を引き起こし環境危機は世界的な規模で広がり始めた。

3. 世界と日本の関係は何か

このように環境問題を解決するためには、世界全体での取り組みが必要である。・・・1997年には二酸化炭素ほか地球温暖化の原因となる各種のガスの放出を規制する京都議定書がむすばれた。・・・

4. 私たちがこれからしなければならない（目指す）ことは何か

大気中の二酸化炭素増大の主要原因は車の排気ガスや家庭の冷暖房にあるので、私達一人一人が日常生活をみなおすことが大切である。また物を大切に、なるべくゴミを出さないようにすることも環境問題対策になると思う。環境問題について調べ、理解し、今の現状を知ること大切である。そして調べたことを活かし、一人一人が行動していくことが、環境問題解決につながっていくと思う。

1. 人類の抱えている課題とは何か

南北問題、貧富の差について

2. 何が原因でこのようになったのか（歴史的背景は）

世界が南の発展途上国と北の先進国というように経済の格差によって区分された最初は、ルネサンスの発明によって大航海時代が可能になったことによって、ヨーロッパ諸国の植民地がアジア、アフリカに増えていったからだ。またより遠くへという風に技術を進歩させたことでまた格差は広がってしまったんだと思う。・・・

3. 世界と日本の関係は何か

南側に多いとされている低所得国はだいたいアフリカ大陸とアジア大陸に多いというのが地図を見てもわかる。日本は先進国に分類されているけれども、地理的にはどう見てもアジアの中に入っている。ということは先進国にいながらも、発展途上国への理解と気配りを一番考えなければいけないのだと思う。これってとても難しい立場だ。でも日本というクッションをおいて少しずつ南北の格差が改善されたら良いと思う。

4. 私たちがこれからしなければならない（目指す）ことは何か

まずは世界の中で自分達の現状をしっかりと理解する事が大事だと思いました。何気なく普段生活しているけれど、世界には全部の人々のうちの10億人が何かの理由で貧しい生活から抜け出せずにいたり、生きることができずに1日に2万人もの方が命を絶っている。私達がしている「何気なく」という生活がどれだけ凄惨な事なのか考えたい。そして、今度は自分達の問題について何が出来るのかを考えること。私はこのレポートを書くため、南北問題の本を読みました。これからはもっとやっていきたい。

オ 検証

習得した知識を総合して現代の課題を分析し、未来を展望することにつなげていく、最終段階の歴史的思考力を身につけさせるためレポート学習を実施した。生徒たちは頭を抱え、試行錯誤しながらも既に持っている知識を全て活用しようとする姿勢を示し、一生懸命レポートを書いていた。特に、生徒のレポート例のように、環境問題の歴史的背景を「農耕・牧畜という人類が食糧生産を管理する試み」に起因させ、「産業革命により・・・環境への影響力は比較できないほど深刻になった」という展開をし、世界史授業一年間の知識の上に、

既存の知識である「森林伐採による地球への影響」や「環境問題対策」を取り入れた総合的なレポートにまとめあげた生徒もいた。これは歴史的思考力の第5段階まで到達した生徒の一人だと評価したい。そして、何よりも事例の二人とも「これからも調べていきたい」という意志・主体性が述べられていることが私にとってうれしいことであった。

中には、資料の収集能力が脆弱で、比較・検証ができないまま教科書等を書き写す例も見られたが、現代社会の課題に対し、歴史的背景・原因から未来への展望・明日の生き方を考える方法を学び、身につけたと考えている。

7 まとめ

今回、学習内容を段階的に発展させることで、歴史的思考力を養わせようと「実践・・・」を進めてきた。「実践」では司書教諭の協力もあり、多くの関係図書を生徒に提供することができ、また、インターネットを利用して調べる班もあり、調べ方の広がりを感じることができた。しかし、生徒たちの調べ方は該当項目を見つけた段階で満足してしまい、他と比較することなく引用をしていたのが残念であった。この傾向は「実践」まで続き、歴史的思考力第2段階の、複数の資料を読み込んで比較する力を十分につけることはできず、第3段階も、不十分であった感が否めない。ただし、「実践」や「実践」の検証で、教員側の創意工夫や働きかけが重要であることを確認することができた。

今回の実践を通じて、歴史的思考力の第1・第4・第5段階の力は比較的つけさせることができたのではないかと考えている。現代社会の諸問題に対し、課題解決のための考えを述べる生徒もいたが、第2・第3段階の力が不十分である為、説得力や創造性に欠けるものとなる。その意味では、やはり第2・第3段階を含んだ歴史的思考力の重要性を認識できる。第1段階、つまり基礎基本の理解につまづいている生徒は、次の段階における方法や手段がわからず困惑していた。歴史的思考力を養わせるためには、基礎基本の徹底からはじめる必要性も痛感した。授業の進め方は様々なパターンがあって当然であるとともに、各授業のバランスを保ちながら展開することが大切である。

8 おわりに

「なぜ歴史を勉強しなければならないのか」というアンケートに対し、1年間歴史を勉強してきた生徒のうち「日本人として日本の過去を知らなければならないから。日本が過去に何をやって成功したのか、失敗したのか未来に生かすためだと思う。」との回答があった。私の考える歴史的思考力が内包された答えであり、そのような生徒が一人でも二人でもでてきたことをたいへんうれしく思う。

今回の実践で生徒全員が歴史的思考力を身につけたとは決して言えないが、教員の側から歴史的思考力の養い方（道筋）を第1段階から第5段階まで示すことができたことは、生徒にとっても自分にとっても画期的な成果であった。今後も「明日の生き方を考える世界史学習を目指して」研鑽を積んでいきたい。

最後に、2年間にわたって御指導・御助言をいただいた千葉県教育庁教育振興部指導課の指導主事、教科指導員の先生方をはじめ、関係諸先生方にこの場をお借りて厚く御礼申し上げます。